

wish ● ● ● ウィッシュ

前橋市手をつなぐ育成会報

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>

メールアドレス info@m-teotunagu.moo.jp

携帯TEL 080-7744-4300

○発行所／前橋市手をつなぐ育成会 前橋市東上野町459-1 前橋市立前橋特別支援学校内 ○発行人／塩崎政江 ○印刷所／マルエー印刷



第50回目となる福祉パレードが開催されました。中毛地区A班の実行委員長を務めてくださいました、社会福祉法人はるな郷こがね荘の、山崎貴司施設長さんより、中毛地区A班の実施報告を寄稿していただきました。



第50回福祉パレード

実行委員長 こがね荘 山崎 貴司

第50回福祉パレード中毛地区A班記念集会が、9月12日（火）8：30～9：00、前橋市役所正面玄関前で開催されました。新型コロナウィルス感染防止のため令和2・3年は中止、昨年は人数を制限しての開催でしたが、今年は人数の制限もなくたくさんの皆様にお集まりいただき開催することができました。

山本市長、阿部市議会議長、吉川教育長を始め、行政関係、議会関係、学校関係、育成会関係、福祉施設関係など、約110名参加のもと、「知的障害者福祉月間記念行事」として実施することができました。

支援者代表、本人代表がメッセージの朗読を行い、本人代表者からは「安心して前橋市で生活したい」と力強いメッセージが伝えられました。また、福祉施設の利用者の方が作成した記念品（手工芸品、クッキー）を市長、市議会議長、教育長に贈呈しました。メッセージに対しあ三方から、励ましの言葉をいただき、参加した本人たちはとても嬉しそうでした。

パレードに参加した利用者本人に話を聞くと、「たくさんの人人がいて緊張した」「お土産のクッキーがおいしかった」と話してくれました。

昨年に続き、市役所1階ロビーでの作品展は、市役所に足を運んだたくさんの人の目にとまり、立ち止まって見て下さる方がたくさんいました。また、パレードに参加できなかつた方たちにも見てもらうためYouTube動画を配信しました。公開期間で200回の再生がありました。

関係機関のご協力のおかげで、前橋集会を盛り上げることができました。

ご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。



初めての『まえばしインクルーシブスポーツフェスタ』

実行委員長 塩崎政江

令和5年9月23日（土）道の駅「まえばし赤城」で、誰でも参加できて一緒に楽しめるイベントが開催されました。

当日は、手をつなぐ育成会から16名、富士見中・南橘中から25名がボランティアとして参加しました。障害のあるなしにかかわらず、年齢も性別も国籍も関係なく、みんなが笑顔で声を掛け合って楽しむことができました。

当日参加した中学生のアンケートから、障害児・障害者とふれあって感じた素直で温かい気持ちを感じました。一部を抜粋して紹介します。

- ▢ 障害者の方も楽しければ笑い、怖ければためらうという場面を見て、違うのはほんの少しの部分だけ。その違いだけで差別をしたり偏見を持ったりするのは本当に愚かな事だと思いました。
- ▢ 障害児・障害者と言うけれど、私達と何も変わらないと感じました。今まであまり障害者を見たこともふれあうこともなかったのですが、ふれあってみると大変そうだけど楽しんでいることを知ることができました。
- ▢ 正直、障害者が少し苦手で、どう接すればいいのか分からなかったのですが、一緒に遊んだり話したりすることで、私達とあまり変わらない、同じように接していいんだって思いました。
- ▢ メチャクチャ楽しかったです。将来に役立てようと思いました。
- ▢ これからもボランティア活動をしていきたいと思いました。また、少しだけ、障害者と関わる仕事などで働くかな？と思いました。
- ▢ 障害児・障害者でも、一緒に楽しんだり遊んだりできるんだなって思いました。将来の夢が人と関わったりする仕事なので、どんな人とも接することができるようになります。
- ▢ 「人のために何か行動をすることは、自分にもいい経験になる」ということを再確認できました。障害に対する差別などがある中で、公平にできる事があると感じました。少しでも理解を深めようとする気持ちが大事だと思います。

いかがでしたか？多くの生徒はこれまで障害者と関わる機会が少なかったようでしたが、直接ふれあうことで障害者への関心を高め、同じ人間として温かく受け止めてくれるようになったのではないかと感じました。これからも中高生と交流できる機会を増やしていきたいものです。



学びと交流の「前橋サテライト会場」

7月15日（土）に開催された第58回群馬県手をつなぐ育成会大会では、前橋サテライト会場を設置しました。総合福祉社会館の会場には、本人、ご家族、支援者など39名が集まりました。今回は「ぐんまペアレントメンターの会」関係者も一緒に参加していただき、様々な方と知り合いになりました。

今回のメインは、又村あおい氏による講演会「親なき後を考える～漠然とした不安は解決しません～」でした。

知的・発達障害のある人にとっての「8050問題」は、多様で深刻にもかかわらず「まだだいじょうぶ」と感じてしまいがちです。子どもが通所サービスのみで同居している場合、親が認知症になったらどうなるのか？このまま親の年金と子の年金の両方で生活していくよいのか？グループホームが多様化する中で、本人の年金収入だけでは生活が出来なくなるケースが増加しているなど、切実な課題を具体的に考える機会となりました。家族同居率について、本人が65歳未満は92%で圧倒的に多く、本人も「今までと同じように暮らしたい＝親との同居希望」が約79%だそうです。しかし、なぜ同居を希望するのかと考えてみると「わからないから」ではないかとのお話でした。確かに体験をしてみないと今後どうしたらよいかを考えることは難しく、一人暮らしの体験の重要性を感じました。また、高齢期を見据えたお金の問題も、公的な制度をしっかり把握して最大限利用することが大事であること、本人の住まいもこれから様々な形がでてくるので、漠然とした不安を相談員等にぶつけながら、具体的な課題へと変えて、現実に即した計画を立てることが必要だと教えていただきました。

講演の前後で、参加者同士がたくさんおしゃべりして交流でき、様々な情報交換ができたことも大きな成果でした。



「のびゆく
子どものつどい」
への参加 !!

常任理事の吉澤守和さんが、富士見地区「のびゆく子どものつどい」への参加について提案してくださいり、実行委員会で承認されて、初めて参加することになりました。

これまでも「手をつなぐ作品展」で前橋市内の全地域を巡回していますが、手をつなぐ育成会会員が、直接市民に説明したり、手作りの作品を販売したりすることはできませんでした。

5月28日（日）の午前中、富士見公民館の入口付近にテントを張り、地元のあかぎの響さんの手作りクッキーなどを販売しました。手をつなぐ育成会の事業説明や会員募集も行いました。オリジナルキャラクターのぬりえや、紙コップのけん玉作りなどワークショップも開いて、たくさんの子ども達に参加してもらいました。

今後、上川淵地区にもお世話になる予定です。次第に地域を広げていけるといいですね。





ウッドクラフト&プラネタリウム

8月20日（日）前橋市児童文化センターボランティアの会との共催で、「ゆうあいサークル1」を行いました。

「ウッドクラフト」は、協力員の岡田高明さんのご協力で、小さなこけしをもとに、穴を開けたりくっつけたり、自分が作りたいものを作って楽しみました。蜂やトンボ、テーブルやイスを作った人もいて、それぞれの個性に感激でした。初めて児童文化センターのボランティアの会の皆さんと一緒に活動して、楽しいふれあいができました。

児童文化センター自慢のプラネタリウム。普段の時には入りにくい方も、貸し切りにしたので安心です。観覧者に合わせてくれる職員の生解説は、ゆったりと落ち着いた雰囲気でした。団体投影として貸し切ることができ、内容も時間も相談にのってくれます。ぜひ、皆さんも予約してみてください。



実施日	項目	場所
11月18日(土)	手をつなぐ育成会関東甲信越大会	栃木総合文化センター
12月10日(日)	ボウリング大会	エメラルドボウル
おしゃべり交流会	テーマ	総合福祉社会館
令和5年11月14日(火)	「成年後見制度」	第1会議室
12月12日(火)	「今の事業所に、いつまでかよえるの?」	第4会議室
令和6年 1月 9日(火)	「口腔ケアと歯科受診・検診」(親なきあと相談会併催)	第1会議室